

平成 30 年度第 2 回牧之原市指定管理者選定委員会 議事要点録	
日時	平成 30 年 9 月 26 日（水）午後 1 時 00 分～午後 4 時 50 分
場所	牧之原市榛原庁舎 6 階会議室 現地調査 こづつみ作業所 つくしホーム つくしの家 相良いきいきセンター 生きがいガーデンこにた
出席者	（委員）寺田委員、菊間委員、山下委員、鈴木委員、知久委員、竹内委員、小泉委員、阿部委員、小関委員、石井委員 （事務局）櫻井社会福祉課長、植田高齢者福祉課長、松下管理情報課長、河原社会福祉課係長、畑社会福祉課主査、福代高齢者福祉課係長、本杉高齢者福祉課総括主任、原口管理情報課係長、高橋管理情報課主事
議題	1 開 会 2 協議事項 （1）現地調査 ① こづつみ作業所 ② つくしホーム ③ つくしの家 ④ 相良いきいきセンター ⑤ 生きがいガーデンこにた （2）現地調査を踏まえての意見交換 3 閉 会
	●現地視察 （1）現地視察 こづつみ作業所、つくしホーム、つくしの家、相良いきいきセンター、生きがいガーデンこにた 榛原庁舎 6 階会議室 （2）現地調査を踏まえての意見交換 ※括弧内は回答 ・次回は 10 月 22 日の 9 時から。次回までに各自採点をしてきてもらう。 ・クリアの基準の点数は 60 点以上なのか。（20 問の 1～5 段階評価で真ん中の 3 点が 20 問で 60 点なので、普通の基準をクリアしていると考えている。前回の委員会で、もし合格点を下回った時はどうするのか？という質問に対して 60 点以上で合格と考えているが、もし下回って失格になった場合は他に手を挙げているところもなく、できないとなると市も困ってしまうため、評価をして低い点数のところがあれば改善してもらおうように対応したい。と回答をもらっている。） ・数値でクリアしていれば、普通にするのか、良にするのか、優良にするのかはその人の判断になるのか。（前回、誰がつけても同じ項目については担

当課で採点するとなった。障がい者福祉施設 3 施設では【1-3 利用者満足度】は全施設 5 点、【4-1 適切な人員配置】は担当課で採点、【4-4 適切な予算執行】は共通評価とする。高齢者施設 2 施設では【2-1 開所日数】は全施設 3 点、【2-2 開所時間】は全施設 3 点、【4-1 管理運営の実績】は全施設 5 点、【4-3 人員配置】は全施設 5 点、【4-5 安定した経営】は共通評価とする。）

・たとえば 61 点や 62 点だった場合、一般的な点数で見ると低いため、議会へ報告は問題にならないのか。（一般的には 100 点満点中 70 点が合格点かと思うが、改善点があれば条件付きで合格ということもできる。市長に対して答申をしてその通りに市長が議会に報告をする。60 点くらいの場合は付帯事項が付く。改善する点があれば答申にあげる。）

・【4-1 適切な人員配置】で、「適切な人員配置」と「十分な人員配置」で、適切は数値を満たしていること、十分というのは内情によって職員が十分に勤めていけるかということなので、そこを担当課の判断でちゃんと見てほしい。それによっては、適切ではあるけれども業務に支障があって人数を増やした方がいいということにもなるので。（担当課で日頃のチェックを参考にしながら、職員が足りないという情報も入っていると思うので、適切で法的にはクリアしているけれども満足いくサービスができていないのであれば、体制や人員の見直しの問題があると思うので、そういう日頃のチェックを反映して評価をする。）

・ここにたで 1 階の利用定員が 12 人で 7 人利用して、利用料が 200 円という話があったが、ここにたの施設としての収支は？（収支としてはどちらの申請業者も社会貢献ということで市から払っている委託料と、運営費でほぼ 0 くらいでやっている。専門職をひとり配置して、研修を受けた方がつけばいいということでやっているが、施設側も適切なサービスを行うにはそれ以上の職員を配置しているため、年齢階層が施設長クラスの人が入ってくる影響で若干マイナスになる場合もある。人間的な年齢階層によってひとは施設長の方と若い方を入れていただければいいが、そういうところばかりではない。キャパが 12 人の定員で実際の利用者が 7 人や 10 人となる。市としてはその分の委託料として払っている。12 人の定員まで対応可能ということ。）

・障がい者施設や高齢者施設の他の施設を見たことがないので、今回初めて見てみなさんががんばっているというイメージがあったんですけども、他の施設と比較ができないのでそれが普通なのか、優れているのか、4 なのか 5 なのかという判断が難しい。（事業をやっているレベルで判断していけばいいと思う。専門的な方もいるので、ご意見を参考して判断をしていく。）

・地域の方との交流も今回の施設が普通なのか、優れているのか、他の施設を知らないので判断が難しい。

・地域の方の交流で先ほど見学行った際に、2 階のベランダのところを出入りできないので遮断したと言っていた。もう一步踏み込んでいけば今後この

地域に根差しながら、利用者さんが関わってくれて新しい利用者さんとして地域の人も入っていくということを具体的にするには、そこを閉鎖的にしないで、出すけれどもうまくやっつけられる手段はないのか、今後踏み込んでいくような課題が見えた。すべての施設がそうして取り組んでいるわけではないですけれども、問題にぶつかった時に引いてしまうか、やりとりをして少しでも砕けるものを見つけていくかのポイントだと思う。高齢者の両方の施設で、一般的にやるべきことはしっかりやっているが、これからの課題は双方ともあった。

・他の施設で年1回夏祭りをやって、地域の人にもきてもらって地域の人とのふれあいをしているが、グループホームなどのこにたでもやっているのか。ベランダの件では地域で理解を得られるようなことがあればいいが。

・取り組みとしては草刈りとかを地域の人と積極的にしていたり、他の部分で関わっているのが見える状況もあったので、これからのびしろはあると思うので期待の意味も込めて評価をしたい。こにたが建つ早い段階から苦情があった。それから何年もたっているのでアプローチすると違った結果になるのかなと思う。(こにたの2階のベランダの部分で、基本的には1階がデイサービスとかをやっているところになっていて、2階は集いの場としてみなさんが集まる場所として提供しているので、1階の利用者が2階のベランダに行くという事業展開は今のところ難しい。市民の方が集まりの場でベランダに出るということは、締め切っているという言い方をしたんですけど、安全性を保てれば出ることも可能。その辺は施設側と協議をする。)

・本日は主に2点、人の関係と物の関係を見ていた。まず利用者の表情がどういう表情をしていたか。みなさんそれぞれ楽しそうな感じで、障がいのある方の表現の仕方はそれぞれ違うけれど、うまくいっているのかなという印象を受けた。行事のものなど貼ってあったのを見ると、みんな楽しそうにやっているなという印象だった。もう一つ人に関しては、スタッフの動きや表情を見ましたけれども、その都度笑顔でやっていただいていると思った。物に関しては、確かに施設も古いところがあるため老朽化はやむを得ないところですが、限られた施設のスペースの中で、本当はもっと広いスペースがほしいという声もありましたけれども、配置を工夫して精一杯やっているのではないかと思った。そのような視点で見ましたので、その中でそれぞれの施設で一生懸命やっつけている頭が下がるなと思った。社会貢献や支援している印象を受けた。細かい改善点などは精査したいと思う。

・つくしホームの和式トイレなんですけど、訓練として必要であるならきちんとした和式トイレを設置する必要があるのではないかと思った。

・聞いたところによると、最初は普通の地面に足を付ける和式トイレだったけれども、職員が介護するときにとっても大変なので少し高くした。利用者が座って向きをその場で変えてできるように少し高くしてあるとのこと。仮のトイレとしているなら改善の余地が必要なのでは。

・ベランダの件でデイサービスを利用している方が2階に上がらないという

ことはありだと思ふ。デイサービスを利用される予防の方たちというのは地域の方たちの教室に通っている方がいずれ予防の方へ通ってくるというように段階を追ってくる。そこで施設が地域に広げるアピールの場としての重要だと思ふ。デイサービスの方がどうこうではなく、地域へのかかわりという面でもらえていただきたい。(ここにたも地域の関わりとして草刈りであったり奉仕作業を一緒にやっているの、地域活動はできていると思ふ。ボランティアについては昔の経緯があつたが、今は市の方には苦情は来ていない。活動ができるのであれば検討していきたい。)

・いずれ施設の方に入ってくるような人たちは、予防の段階やその前はボランティアで関わるということになると、自分が行かされている、入れられたというような感覚のサービス事業ではなくて、ボランティアでの関わりで最終的には入所の段階でこの施設いいなというようなふれあいというかたちの施設であつてほしい。(地域の拠点施設という考えでそういう風にした)

～第2回牧之原市指定管理者選定委員会終了～